

▲町図書館カウンター前に設置してある「自然に親しむ」のコーナー

■「自然に親しむ」コーナーでリフレッシュしませんか
緑の濃淡が美しい初夏の里山の景色を見ながら、ゆっくり散歩するのは気持ちがいいですね。屋外での活動が楽しい季節になりました。そこで今月は「自然に親しむ」コーナーを作り、紹介していきます。植物や昆虫、野鳥の図鑑、キャンプやアウト

町生涯学習センター・図書館

☎ 096-234-2447 (内線331)

■開館時間 午前9時～午後5時

■休館日 毎週火曜
年末年始

■貸出冊数 1人5冊まで

■貸出期間 15日間



ドア、ガーデニングや家庭菜園、健康や環境についての本などを集めました。日常生活の中で身近な自然に触れて、五感で楽しみ、心身ともにリフレッシュしましょう。ぜひ、お役立てください。
■0歳児からのおはなし会について
図書館では、毎月第2木曜日に「0歳児からのおはなし会」を行っています。絵本の読み聞かせや、手袋人形、手遊びうたなど楽しい内容です。子育て中の保護者のみなさん、おじいちゃん、おばあちゃんも子どもたちとお気軽にご参加ください。
●日時
5月14日(木) 午前10時30分
●会場
おはなしのへや(甲佐町生涯学習センター・図書室内)

新着図書紹介

小説



みずうみの満ちるまで
土形 亜理 著/早川書房

気候変動と戦争に荒れた未来。富裕層は精神を仮想空間に移し永遠の命を得たが、全財産を次世代に託し死を選ぶ者もいた。絶望の先に生まれた場所で、受け渡されてゆく命の物語…。第13回ハヤカワSFコンテスト特別賞受賞作です。



生きとるわ
又吉 直樹 著/文藝春秋

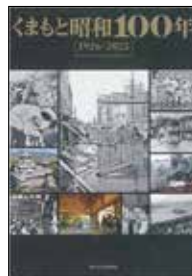
公認会計士として、はた目には順調な生活を送っている岡田。しかし、高校時代の仲間だった横井に500万円を貸したことから、人生が狂い始める…。「生きる」ことのやりきれなさとおかしみに、感情を刺激され続ける一冊です。



春かすら
澤田 瞳子 著/幻冬舎

父が殺され、以来12年間、敵討ちのために諸国を巡る清史郎。しかし、敵の手掛かりは見つからない。病死した母の弔いのためふるさとに戻った清史郎は、ある少年を助けるが…。丁寧に描かれた人間ドラマに心揺さぶられる一冊です。

一般書



くまもと昭和100年[1926-2025]
熊本日日新聞社

絶え間なく続く暮らしの中で、変わったものとは、そして変わらないものとは何か…。昭和の始まりから現在までの100年という歴史の中、熊本で起きたさまざまな出来事を「熊本日日新聞」収蔵の豊富な写真と文章で振り返ります。



東大研究員がゼロから考えてみた「宇宙の常識」 澤田 涼 著/大和出版

「なぜ太陽に寿命があるの?」「どうして光の速度が一番早いのか?」素朴な疑問を入口に、現在の宇宙像へ至るまでの「なぜその考えが必要になったのか」という道筋を平易にたどり直す…。専門知識がなくても宇宙の謎を楽しめる一冊です。



素晴らしきレトロケーキの世界
中田 ふう 著/光文社

ショートケーキ、シュークリーム、バターケーキ…。昔ながらのビジュアルが魅力の「レトロケーキ」の世界を深掘り。老舗名洋菓子店の歴史や秘話、店の看板を背負って立つ歴史あるケーキなどをノスタルジックな写真で紹介しています。

今回は、小山田家（おやまだけ）に伝わる「小山田家文書」の時代、宝暦4年（1754年）～宝暦6年（1756年）の「米」の価格について調べてみました。

小山田家文書によると、このころの米の価格は、宝暦4年が1俵（60^{キロ}）＝銀13匁、宝暦5年が3斗5升（52.5^{キロ}）＝銀23～25匁、宝暦6年が1斗5升（22.5^{キロ}）＝銀23匁だったようです。

ここで、米5^{キロ}当たりの平均価格4,073円（※1）を基に金1両を現在の金額に換算すると、金1両は約12万2,190円（※2）。江戸中期の金1両は銀60匁ですので、当時の銀1匁は約2,037円と試算されます。この銀1匁（約2,037円）を基準に米10^{キロ}を現在の価格に換算すると、宝暦4年は4,410円、宝暦5年は8,920円～9,700円、宝暦6年は2万820円となり、宝暦5・6年は不作だったことが推測されます。

この時期の米の価格は日照りや水害など自然災害などの影響を受けやすく、安定して米を作ることは大変

だったことと思います。そこで、小山田家文書には米の価格以外にも粟や大麦、小麦、大豆や小豆、ひえや唐芋などさまざまな穀物の金額も記してあり、多くの穀物が取り引きされていたことが分かります。最近至るところで田んぼの埋め立てが行われて、いつのまにか宅地や工場に代わっていきびっくりします。人手不足や高齢化のためと思いますが、米不足の時の慌て方を見るとこれから先の心配が目に見えそうです。

※1 農林水産省発表の全国スーパー約1000店舗で令和8年2月23日～3月1日に販売された平均価格
 ※2 日本銀行金融研究所貨幣博物館ウェブサイト『江戸時代の1両は今のいくら』より



▲「小山田家文書」

お問い合わせ先 町社会教育課 ☎ 096-234-2447 (内線327)

人権、心豊かに暮らすために

戦争のない平和の尊さを次世代へつなぐ

誰もが自分らしく生きられる未来のために私たちができること

私たちが過ごす日常は、決して当たり前のものではありません。

今までに多くの命を奪ってきた戦争は、最大の人権侵害です。こうした人権侵害のない、一人ひとりの人権が尊重され、誰もが職場・家庭・地域で自分らしく生きられる平和な社会が必要です。過去から学び、未来へつなぐために、今、私たちができることは何でしょうか。

戦争は、人間が持つ基本的な権利である「生きる権利」を根底から奪う人権侵害です。かつての戦禍では、子どもを含む多くの人々が自分の意志とは無関係に未来を閉ざされ、家族との絆を引き裂かれました。その痛みや悲しみは、決して過去の遠い出来事ではありません。

日本では、戦後から長い年月が経ち、戦争を体験した方の声を聞く機会は年々少なくなっています。歴史の教訓

を風化させることは、平和を維持するための基盤を失うことにもつながります。私たちが平和について語り継ぐことは、二度と同じ過ちを繰り返さないという強い意思の表明なのです。

平和な社会を守るために、私たちにできることは何でしょうか。「相手を尊重する」、「多様な意見を受け入れる」、「自分とは違う立場を想像してみる」など、一人ひとりの小さな思いやりや対話の積み重ねこそが、誰もが安心して暮らせるまちをつくる礎となります。

「平和」は、誰かに与えられるのではなく、私たちが作り上げるものです。誰もが自分らしく生きられるために、まずは隣の人を大切にすることを始めてみませんか。

●お問い合わせ先

町教育委員会社会教育課
 ☎ 096-234-2447
 (内線324)